『リーダーの易経』の 著者・竹村亞希子氏に聞く

「すべての人に学び、諫言を聞くことが大切」

『易経』は「帝王学の教科書」として知られていますが、その帝王学の中心として学ばれてきたのが「乾為天」という卦（か）で説かれている「龍の話」です。この話は六段階に分けられています。

第一段階の「潜龍」では、「確固とした高い志」を持つことが大切です。今の若い人たちは夢のない人が多いですし、現実の壁にぶつかって志が変形したりしぼんだりすることが多いと思います。ですから、世に出る前にどれだけしっかりとした志を固められるかが大事です。この志は「世の中のためになる」という志ですので、自分さえよければいいという野心とは違うものです。

また第二段階の「見龍」ではまだまだ修行段階なので、師と仰ぐ人を見て学び、基本を体得することが大切です。さらに第三段階の「君子終日乾乾す」では、毎日、努力精進し、同じことを繰り返しながら日々反省します。やがて量が質に転換し、難しい問題やクレーム処理など、どのような問題にも対応できる力がついてきます。

次に第四段階が「躍龍」。この段階では、すでに実力は充分備わっていますが、飛龍になるための「好機」をとらえなければなりません。初志を改めて振り返り、実現の試みを繰り返し、チャンスをうかがいます。

そしていよいよ第五段階が「飛龍」。空を翔け、慈雨を降らす立場になります。社会的に認められ、お金も儲